

# かけの手入れ方法

〇〇〇高等学校 弓道部 資料

かけは『かけがえのない』という言葉の語源となるように、道具のなかでも大切なものです。長く使うためにはやはり扱いを慎重に行ってください。

## 1. 日頃の扱い方

使用後は、かけを開いた状態で陰干にしてください。かけの革は鹿革で湿気により、雑菌やカビが繁殖します。また、縫糸が腐食し、ほころびの原因の一つとなります。

また、使って汗が染みた下がけと一緒にするのもよくありません。練習中も下がけが湿ってきたら こまめに取り替えてください。

かけは通気性の良い袋（木綿）等にに入れて保管してください。合成革の鞆や、缶・タッパ一容器に入れている方もいらっしゃいますが、通気性が悪いのでお勧めできません。また、中に過度の除湿剤をいれることも良くありません。除湿されすぎて、かけがカサカサになり革が硬くなってしまうことや、除湿剤の袋が破れかけに薬品が、かけに付いてしまうことがあります。

革が硬くなってしまったかけは、針が刺さらないため、修理ができません。缶などに入れるのは移動のとき（形をくずさないため）程度にし、なるべく通気性の良い状態で保管してください。

## 2. カケは鹿皮製品のため、水分は大敵です。

汗をかいたら下がけを乾いた清潔な物にまめに取り換える事と、矢返しの間も下がけを外すなどした方が少しでも湿気を逃がすことになると思います。それでも中が湿っていたら、家に持ち帰るまで指先内部に新聞紙を丸めた物で少しでも湿気を吸い取り、帰った後風通しの良い日陰で干すことです。しかし逆にお勧めできないのは、密閉した容器に過度の乾燥剤などを長時間一緒にすると、カケが変形したまま固まる事があります。乾燥のしすぎもカケにはよくありません。

しかし、その他に夏はぎり粉の付けすぎで、べたべたして離れが出にくくなることがあります。これも暑さによりぎり粉が溶け、ヤニ状に戻ってしまうことが原因と思われます。本来ならぎり粉の量は一回の練習に耳かき一杯くらいを付ける程度で、付けすぎてしまったら捨ててしまっても良いです。まれにカケの帽子の先や中指も真っ黒になっている事があります。この黒くなったぎり粉を落とすには砂消しゴムで丁寧にこすって下さい。天花粉（ベビーパウダー）などの粉を軽くまぶして砂消しゴムでこすれば、なお鹿皮に負担をかけずにすみます。固まってしまった部分は軽石（又は目の細かいサンドペーパー）で削り、その後爪磨き用などのやや固めのブラシをかけて下さい。軽石はカケや握り皮などの製造段階でも使われる道具です。なめされた鹿皮に残された毛などをバーナーで焼き、その後軽石でこすることによって鹿皮独特の風合いが出るのです。

しかし、くれぐれも、カケの縫い糸を切らないように注意して下さい。

皆さんの大事なカケを長く使うためにも、以上の手入れ方法を参考して下さい